

診療DXによる研究創出力を高める大学病院構造改革

電子カルテ × 生成AI × AI-CT による「診療がそのまま研究につながる病院」への転換モデル



熊本大学
Kumamoto University

現状の課題

膨大な診療データが
研究に未活用



日常診療で蓄積されるデータや画像情報が、
研究に使える形に整理・統制されていない。

研究活動が「個人の努力」に依存



研究が属人化・単独化し、組織としての知見が
再生産されにくい構造。

医師の業務負担と研究時間の不足



診療記録作成などの負担が大きく、研究に充
てる時間を確保することが困難。

解決策：事業内容

I. 研究を生み出す制度・基盤
(DX基盤)



電子カルテ × 生成AI × 研究支
援基盤を統合。データを自動的に
「研究に使える形」へ転換し、業務
負担を軽減して研究時間を創出。

「熊本大学病院バイオ
バンク」と連携した画
像×臨床情報×生体試
料の総合研究を推進



④ 研究力・
経営力向上

① 診療効率化



II. 高付加価値データを生み出す
中核装置(AI-CT)



② 余力創出
(時間・データ)



AI搭載CTを「研究基盤」として
導入。非侵襲的な画像バイオマ
ーカーの創出など、世界水準のデー
タを供給する。

③ 教育・研究へ
再投資



「診療・教育・研究・経営の
好循環」の創出

診療DXで生まれた余力
(時間・データ)を教育・研究へ再
投資し、病院全体の機能を強化
する持続可能なモデル構築する。

III. 診療DXと研究高度化の循環構造の実装

WEBアプリやAIによる診療DXで業務を効率化し研究時間を
創出し、AI搭載CTの高品質データを自動構造化して迅速に研
究へ繋ぐ循環構造を病院の運営システムとして実装する。

推進体制

病院長のリーダーシップに
基づく強力な推進体制



事業の持続性と将来展望



成果と波及効果

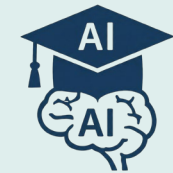
研究創出力の向上



業務効率化の実現



教育への波及：
次世代人材の育成



AIリテラシーを備えた医療
人材を育成。AI画像診断技
術を学ぶ教育プログラムを
構築し、学生・研修医に提供。

地域への波及：医療連携の強化



「くまもとメディカルネットワーク」を通じ、地
域医療機関とデータ連携。大学病院が高度医
療・研究のハブ機能を担う。

地域医療の未来を創る「プラットフォーム」：院内改革と医療政策の循環

プラットフォームから波及する2つの変革

院内改革への即時反映（3つの歯車）



ステークホルダーの トップによる定期協議

大学、行政（知事）、地域の医師会等のトップ
が集まり、役割や機能を共有します。

意思決定の起点：多機関連携「プラットフォーム」

医療機関の役割分担

重点協議の「3本の柱」

人材確保

高度医療の提供

プラットフォームから波及する2つの変革

法定協議会を通じた医療政策のリード

